

徳島地方気象台長からのあいさつ

徳島地方気象台のホームページをご覧くださいありがとうございます。台長の明田川保（あけたがわたもつ）です。どうぞよろしく願いいたします。

さて、そもそも気象台とは何をやるのでしょうか。天気予報ならみなさんご存知でしょう。でも、私なら、「気象台は観測しているところです」とまずは言いたいと思います。気象台では24時間、気象や地震の観測をしています。それは地味な仕事ですが、長く継続することに大変重要な意味があります。異常を異常と言えるのも過去からのデータの積み重ねがあるからです。

そして、情報の発表です。なぜ観測を先に言ったか、それは情報が観測データに基づいて作られるからです。近年、科学・技術の進歩で気象台の出す情報は増え、内容も高度化しています。そうした情報はみなさんに理解していただかなくては意味がありません。気象台ではそのための解説や支援にも力を入れています。難しく言えば、自治体や住民における地域防災力の強化を支援し、万が一の時にみなさんに避難を呼びかける主体となる自治体へ情報を伝えるだけでなく、気象台の持つ危機感を明確に伝えられるよう関係強化に努めています。

気象台は観測データに基づく情報を出すところです。そして、それは受け手のみなさんの理解と行動が伴ったときに意味を持ちます。私は微力ながらそのお手伝いをしたいと考えています。

平成31年4月

徳島地方気象台長 明田川 保

